

高先ふ多くて多くの敵を去りて居る味方
とさし申ねてあふ儀に者凡と敵中おとと
入ハ文トに敵を追ふ——七まん八倒とてくひ
——く上方尻こ——ひ急ぎ追ひて敵の
陣中場ぎと追ひて責め——討たれり後
と堅固おとくめ後時を化て留みり川田
豊多あり味方たう方先後と堅め——敵の
先子小佐久る玄著り先子お升注を帝の後と
一騎お地蔵——二見小佐——玄著も只一息不
けち——切き高き討たて敵と味方と録不

小足が——逃る敵が追ふ所田又た多り利家の
値——て逃に馬と咄と案入て一戦おとこ
多勢と門をひきあふぬぬ池坂南の方の虎
口と奥陣の城へ地入い否にと城の中の人々
危しき限りり——揺——て故陣伝より以年御
家の武士は大小上下たふさずのいささあき
こいせも一入川田り世なのもてさす勢利支
天の再来と云う——劉居名譽古今うまれの
やういふおと敵と味方と一同に死すやう

関川合戦 并 甘粕近江守部謀す